



2026年7月23日

各位

会社名 未来工業株式会社
代表者名 取締役社長 中島 靖
(コード番号7931 東証プライム 名証プレミア)
問合せ先 取締役総合企画部長 吉澤信幸
(TEL. 0584 - 68 - 1200)

連結業績予想と実績の差異及び連結業績予想修正並びに
配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

当社は、2026年4月23日に公表いたしました2027年3月期第1四半期の連結業績予想と実績との間に差異が発生いたしましたのでお知らせいたします。また、2027年3月期第2四半期(中間期)の連結業績予想及び2027年3月期通期の連結業績予想につきまして、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

加えて、本日開催の取締役会におきまして、2027年3月期の期末配当金の予想について、下記の通り、修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想と実績の差異

(1) 2027年3月期 第1四半期連結業績予想と実績との乖離(2026年3月21日～2026年6月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 11,820	百万円 1,290	百万円 1,316	百万円 877	円 銭 54.30
今回発表実績 (B)	12,764	1,945	2,006	1,379	85.31
増減額 (B－A)	943	655	690	501	－
増減率(%)	8.0	50.8	52.5	57.1	－
(ご参考) 前年第1四半期実績 (2026年3月期第1四半期)	11,677	1,479	1,513	1,032	63.98

(2) 連結業績予想と実績との乖離理由

売上高につきましては、電材及び管材において中東地域のリスクの高まりに伴う自己防衛みあい需要の高まりにより増収となり、第1四半期の売上高としては過去最高額を更新いたしました。利益につきましては、運賃、減価償却費等の増加があったものの増収効果等により増益となり、各利益ともに過去最高額を更新いたしました。

2. 連結業績予想の修正

(1) 2027年3月期 第2四半期(中間期)連結業績予想の修正(2026年3月21日～2026年9月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	百万円 未定	百万円 未定	百万円 未定	百万円 未定	円 銭 未定
今回発表予想 (B)	24,778	3,343	3,444	2,340	144.73
増減額 (B－A)	－	－	－	－	－
増減率(%)	－	－	－	－	－
(ご参考)前年中間期実績 (2026年3月期中間期)	22,946	3,159	3,252	2,195	135.95

(2) 2027年3月期 通期連結業績予想の修正(2026年3月21日～2027年3月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 未定	百万円 未定	百万円 未定	百万円 未定	円 銭 未定
今回発表予想 (B)	48,530	6,232	6,398	4,342	268.54
増減額 (B－A)	－	－	－	－	－
増減率(%)	－	－	－	－	－
(ご参考)前年実績 (2026年3月期)	45,673	6,723	6,899	4,696	290.73

(3) 業績予想修正の理由

当社グループは、主に国内の設備投資や住宅・建築市場においてナフサ由来であるプラスチックを原材料とする製品を製造し事業展開をしております。

2027年3月期の連結業績予想につきましては、合理的に予測可能な第1四半期までを公表し、中間期及び通期業績予想につきましては、中東情勢による影響の予測が困難なため「未定」としておりました。実際に、原油・ナフサの供給不安は石油化学製品を原料とする建築資材の深刻な不足と大幅な価格高騰を引き起こし、一部メーカーでは一時供給停止に至る等の影響がありました。一方で、現時点ではこうした建築市場の滞りは限定的となっており、調達先の多様化等により供給リスク低減に向けて一定の見通しが立ったこと等から、中間期及び通期業績予想の合理的な算出が可能と判断し公表することといたしました。

中間期におきましては、第1四半期での自己防衛みあい需要の高まりから一転した反動減による減収に加え、ナフサ価格の高騰に伴う時間差での当社原材料仕入れ単価への影響から利益水準が悪化することが見込まれます。

通期におきましては、下期においても引き続き住宅・建築市場は弱含みで推移するものと想定しており、また、電材及び管材におきまして、原材料仕入れ単価は第2四半期より引き続き高水準となることが見込まれることから、販売価格の改定等により対応することを予定しております。

なお、当該予想は現時点での前提に基づき合理的に算出しておりますが、今後の情勢によっては更なる影響が発生する可能性があります。

3. 配当予想の修正

(1) 配当予想修正の内容

	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前 回 予 想 (2026年4月23日公表)	50 円	50 円	100 円
今 回 修 正 予 想	50 円	85 円	135 円
当 期 実 績			
前 期 実 績 (2026年3月期)	50 円	95 円	145 円

(2) 配当予想修正の理由

当社の株主の皆様に対する利益還元の基本方針は、2027年3月期から2029年3月期につきましては、利益率向上を図りつつ、株主還元の一層の拡充を目指すこととし、配当性向50%またはDOE3%の高い方を目安に配当を実施することとしております。

2027年3月期の連結業績予想につきましては、中東情勢悪化による影響の予測が困難なため「未定」としておりましたが、上記の通り、第2四半期及び通期の連結業績予想を公表いたしました。それに伴いまして、2027年3月期期末配当金を前回予想の1株当たり50円(DOE3%相当)から35円増配の1株当たり85円(配当性向50%相当)へと修正することといたしました。

この結果、2027年3月期の中間配当金は1株当たり50円、期末配当金は1株当たり85円となり、年間配当金は135円となります。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績等は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる場合があります。

以 上